

NPO 釜ヶ崎

野宿生活者の就労機会拡大・居住・生活の安定のために、私たちは努力します。

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 1-5-4
TEL06(6630)6060 E-mail: npokama@npokama.org http://www.npokama.org

「野宿生活者能力活用推進事業」技能講習会開催

釜ヶ崎支援機構は、平成 13 年 12 月より、大阪市から委託を受けて「野宿生活者能力活用推進事業」を実施している。

この事業は、同年9月に厚生労働省から実施要綱が出され、「就労意欲はあるものの、一般雇用施策の中での対応が困難な野宿生活者に対して、仕事に関する情報収集及び提供、仕事の開発等を行い、野宿生活者の残された能力を最大限活用し、自立を促進すること」を目的としている。

実際にやっている事業の主な内容として、市内の自立支援センター3箇所、及び仮設一時避難所2箇所の入所者を対象として、職安の求人情報以外の求人情報の収集・提供と、

技能訓練の講習を行っている。

技能講習会 技能講習会は1月下旬より開催している。①自転車修理、②ペンキ塗り、③靴修理の3コースを作り、各コースとも1回3時間×8回で構成され、定員は5名ずつ。

マナー講習 各講習とも、最初の2回は接客・マナー講習を行っている。



自転車修理講習

「グランドゴルフを楽しむ会」からのお知らせ

4月から、時間が若干変更になります。従来より30分早くなって、毎週土曜日の朝8:00にNPO事務所前に集合することになりました!

新規に参加する人も大募集! 未経験の方でも、すぐに楽しめます。道具もお貸しします。ふるってご参加を!!

詳しくは…NPO釜ヶ崎 福祉相談部門 電話06(6630)6061

この講習で、一般的な社会人としてのマナーを再確認する。例えば、挨拶の基本、敬語の使い方、電話対応、領収書の受け渡し、名刺交換等、ロールプレイを交えながら、礼儀の基本を学ぶ。

自転車修理講習 講習は、自転車の分解から始まり、分解した自転車を元通りに組み立てていく。その他、パンク修理、ブレーキ調整、チェーンの切り離し・設置、タイヤ交換等の実習を行っている。

ペンキ塗り講習 始めに、塗装の基本について講義を受ける。その後で、実際に木工塗装に取り組み、下地研ぎ、はけ塗り、パテ付け、そして金属塗装等の実技を行っている。

靴修理講習 まず、皮革産業の歴史や靴の製造方法について、実演のビデオを見ながら講義をする。その後、靴修理の道具や材料について、さら

に、靴を分解しながらその構造について学んだ後、修理で使用する包丁の研ぎや、婦人靴のかかとの部品交換等の実技を行っている。



ペンキ塗り講習



靴修理講習

～自転車修理講習の現場から～ 講師の先生の感想

自転車修理講習の受講生たちは、とてもまじめに取り組んでくれています。中には、講習の時間外にテキストで自習してきて、自転車の部位の名称などを全部頭に入れてきていた人がいてびっくりしました。そうすると周りの他の受講生が影響を受け、「わしも次回までにテキスト読んで勉強してくるわ」と言い出す人もいました。初めてにしては受講生たちの自転車を扱う手付きがよく、これまでも普段から好きで触っていたのでしょね。8回の講習が終わった時点で、時間が足りないからもっと継続して講習を受けたい、と全員から希望が出て、16回まで延長してやっています。野宿を経験してきた人たちということで、どんな人たちだろうと思いつながら最初は来ましたが、皆のやる気十分でこちらも教えがいがあります。

野宿生活者支援法の早期実現を目指して

法案は継続審議へ 私達が求め続けて来た「野宿生活者自立支援法」は、先の臨時国会で民主党より提出されたが、与野党の調整不足や大阪市の意見等により継続審議扱いとなった。しかし、結果的にはその後、与党三党(自民、公明、保守)が「ホームレス問題に関するワーキングチーム」を作り、野宿問題についての協議を精力的に続けるなど、法案成立に向けて超党派的に動き出すことになった。

継続審議となった理由は、国会での調整の不調に加え、大阪の根回し不足であったとも言われている。

大阪市が提起した懸念材料は次の

ようなものであった。

- ① 公共用地を占有している野宿生活者を簡易に排除できるようにして欲しい。
- ② 公営住宅の供給については、一般の入居を待っている人との兼ね合いもあり、現実的には無理。
- ③ 民間団体の意見の反映については、民間団体から反対があると何もできないので、「聞く」程度にして欲しい。

①については、人権・社会権の無視であり、何の問題の解決にもならない。

②について、公的な住宅問題を取り除いた野宿生活者対策はありえない。③

「なつかしの映画を楽しむ会」

2月より、釜ヶ崎の西成市民館で「なつかしの映画を楽しむ会」を開催しています。(2月7日:「男はつらいよ」、3月13日:「椿三十郎」、3月20日:「網走番外地」を各々上映。)この会は、釜ヶ崎支援機構福祉相談部門主催で、福祉自立者(生活保護受給者)同士の交流を目的として催しています。それ以外の労働者たちもあわせて各回25~45人が集まってくれ、皆で楽しんでいます。

なお、映画上映のためのプロジェクター(ビデオの映像をスクリーンに映し出す機器)は、社会福祉協議会から助成を受けて購入しました。今後も「楽しむ会」を継続してやっていく予定です。

—4月の予定—

「二十四の瞳」「無法松の一生」等
日時・会場等未定。詳細は後日チラシ
でお知らせします! 乞うご期待!!
お問い合わせは…

NPO釜ヶ崎福祉相談部門



は、行政からは足の引っ張りと思われがちであるが、民間団体の声を反映し、住民の理解を得ることは重要であると考える。

与党内でも意見の違いがあり、例えば、公共施設管理の規定について、目的の部分に盛り込むか、あるいは排除規定を設けるか、また、就労に重点を置くか住居に重点を置くか、公営住宅の位置付けをどうするか、さらに、時限立法とするか恒久立法とするか、といった議論があったようだ。また、運動団体の間でも、排除規定や、法案における生活保護の位置付け等に関して見解の相違も見られる。

早期制定を目指して 1月21日から始まった通常国会の会期も半ばとなったが、外務省問題等で大荒れの国会となっている。そこで、この情勢に喝を入れ、野宿生活者を放置し続けている政治の責任を問い、法案の早期制定を実施させようと、東京では新宿連絡会が中心となって、1、2、3月と国会前座り込み、チラシ配り、情宣活動等の国会前行動のキャンペーンを展開している。

1月25日には、新宿、池袋の野宿の仲間100名と共に、釜ヶ崎反失業連絡会の代表団も加わり大行動を実施した。「野宿生活者自立支援法を早期に制定しろ!」の声を国会に叩きつけ、また、議院ロビー活動も同時に行い、通常国会の場が正念場であり、何としても頑張ってもらいたいと、議員への要請行動も力強く行ってきた。

また、2月21日に開かれた与党3党のワーキングチームの会合では、釜ヶ崎支援機構や新宿連絡会などが意見表明する機会を得られ、また、ワーキングチームからは、今国会での法案成立の意向が明らかにされた。釜ヶ崎支援機構の山田理事長は、釜ヶ崎の寄せ場や野宿生活者の実状について説明をし、就労を軸にした自立支援策についての考えを述べ、法案の早期制定を要望した。

3月末で予算審議が終わってから厚生労働委員会を経て、ということになると思われるが、「疑惑問題」等政局にからめることなく、超党派にて早急に成立させてもらいたい。

平成14年度「あいりん高齢日雇労働者特別清掃事業」(特掃)

平成13年の年度末となった現在、3月1～30日の期間は、「あいりん高齢日雇労働者特別清掃事業」(特掃)の1日当たりの輪番労働者の就労人数が37人増え、286人となった。平成12年

度と同様、年度末の若干の増員は、消耗品費が節約できた分の予算を人件費にまわせたことによるものである。しかし、4月以降の新年度当初は大幅に減少し、1日当たり168人となる。

等の公共施設で、土、日、祝日を除く連続 30 日間、入所者が除草や清掃等の作業に従事する、というものである。1 日の労働は時給 703 円×5時間＝3,515 円の賃金となり、30 日で 105,450 円を手にすることができる。

この事業の成果は、必ずしも目に見える形では現れにくい、手にする賃金が就労、自立のための支度金として役立つことは間違いない。また、生活習慣を改善して、生活のリズムを作ることや、勤労意欲の向上にいくらかは役に立っていると思われる。

釜ヶ崎支援機構の就労部門スタッフは、毎朝、各自立支援センターへ出向いて就労する入所者たちを迎えに行き、現場で作業を指示しながら共に働き、仕事が終わると再び自立支援センターに送っている。

現場で働くスタッフ(指導員)から
今、自立支援センターの入所者たち



と、草刈の現場をやっている。メインとサブの2名のスタッフが 13 名の入所者と現場に行き、作業する。30 日間を1クールとして同じ現場で作業し、メインのスタッフと13名のメンバーは固定でやる。特掃では、その日その日のスタッフの受け持ち現場も現場にくる労働者も違うが、自立の現場はそうではない。そういう意味で責任を重く感じる。

この事業は、体慣らしと生活習慣を身に付けることが目的だ、と上の人からいつも言われている。一方で、ある程度作業のスピードを求められることもあるが、ゆっくりでいいから丁寧にやっていきたいと思っている。

彼らと仕事をしていると、時に不思議に思うことがある。自分と同じくらいに仕事をする能力を持ちながら、どうしてここにいるんだろう、と。人生の運、というか、不条理というか…。30 日間が終わると、我々との関わりも終わるのだが、ふと、このおっちゃんたちに未来はあるだろうか、という思いに駆られる。そんなことを真剣に考え出すと、とても気が重く苦しくなる。

そんな思いを抱えながらも、明日もおっちゃんたち連れて現場に行く。

特別清掃に子供たちがボランティアで参加

2月 23 日、北九州市の小中学校の生徒さん、大学の学生さん、及び先生方約 45 人が釜ヶ崎を訪れ、特掃の仕

事をボランティアで手伝ってくださった。彼らに3つのグループに別れて分担して作業していただいた。ほうきとちり取

りを持ってごみを入れるカゴを引きながら、輪番労働者たちと一緒に釜ヶ崎を掃除して回る生活道路清掃班、カンパでいただいた衣類を、あいりん総合センターで労働者たちに配る衣類配布班、大テントの清掃を行う大テント清掃班。与えられた役割を、皆まじめに取り組み作業してくださった。終了時に書いてくださった感想文を紹介させていただく。

○生活道路清掃

- いっぱいゴミが落ちていた。おじさんたちがゴミを集めているのを見ていたら、てきぱきとしていてびっくりした。今日はかなり疲れた。(小学生)
- きつくてしんどかった。でも意外と楽しかった。(小学生)
- きれいになってよかったです。おじさんたちも働き者でいろいろ教えてくれました。とても親切だったからよかったです。(小学生)
- 掃除をしているとおいちゃんたちが、「ありがとう」とか「がんばって」という言葉をかけてくれたり、物を



くれたりして、本当に親切でした。

- 休憩時間におじさんたちといろんな話ができた。「この街は日本一住みやすい」という言葉が興味深かった。「住むとこも食べ物も安いし、大阪万博の頃には九州などからもたくさん人が来て住み着いた。でも、その人たちは今では足腰立たん年寄りや。仕事がなく、住む所もなく、病気で大勢の人が病院で死んでいく。自分の家に帰れず天王寺の無縁墓地に入れられる人も多いんや。」などと、おじさんたちの口から聞いた生の話は、考えさせられた(教師)。

○大テント清掃

- 今回私は大テントの掃除をしました。最初に見たテントの中は、かなり衝撃を受けました。この中で何人もの人が寝ているんだ、と思いました。テントの中を見渡すと、テントには穴が開いていて冬の夜はとても寒いし、中もかなり汚れていて本当に驚きの連続でした。掃除をしている時いろいろなことを考えました。おいちゃんたちはここで眠れるのか。ここで寝られない時はどこで寝るのか、と。そのことを聞いてみると、毎日このテントで寝られるわけじゃないそうです。(無職)
- 大テントの存在を初めて知りました。200名程の人が寝泊まりして

いと聞きましたが、寒い冬を越すにはやはり劣悪な環境であることには違いない。不況による野宿労働者の急増は、野宿労働者から労働と労働による賃金さえも奪い取り、ひいては命をも奪い取っていることを痛切に感じさせられました。



○衣類配布

- 服を広げる台を作り、衣類を並べるとどんどん人が集まり、どんどん少なくなり、あっという間になくなってびっくりしました。
- 衣類を並べようとするや否や、どこから集まってきたのかあっという間に人々が何重にも円を作り、私たちの手の動きを目で追っていた。押さないでという声が拡声器から聞こえてきたが、私の背中には人々の重みを感じられた。どうしてこのような状況が今なお続いているのか、どうしたら安心して1日を過ごしていけるのか、自分のこととしてこれから考えていきたいと思った(教師)。

○その他

- 日本の社会の土台を支えている人たちがいて、その上に自分の生活があるのに…と思いました。生まれて誰かの手の中で育てられた思い出が、一人一人にあったらうと思います。夢に見ることがあるだろうなと思います。幸せに楽しく暮らしたい、とみんな思っていると思います。何をどうすればそれが実現されるのだろう。これから何ができるのかを考えようと思っています。
 - 多くの人たちがこの不況下、職を奪われ収入をなくし、同じ命に生まれながら寒空の中命を奪われていく。おかしな世の中だと思います。すべての人たちが不合理なく生きていけるようにしていかなければならないと痛感しました。
 - 同じ経済大国と言われる日本に住みながら、こんなにも自分と違う環境で暮らしている人々。基本的人権は…現代社会のひずみがここにあると感じた(小学校教師)。
 - 掃除中、駅で見たユニバーサルスタジオジャパン(USJ)のポスターのことを思い出してふと思った。USJに遊びに来ている観光客は、同じ大阪に釜ヶ崎のような所があることを知っているんだろうか、と(大学生)。
- 今回は、小学生から、中学生、大学

生、そして彼らの先生たちまで、幅広い年齢層の人たちが手伝ってくださった。多くの大人たちは、釜ヶ崎の現実を見て、自分たちの知っている世界とのギャップに疑問を感じ、深く考えていた。一方で、小学生たちは、道路のゴミがいっぱいあった、とか、おっちゃんたちはやさしくて働き者だ、と素朴に感じ、釜ヶ崎の空気を感じる中で見たもの全てを、さ

ほどの疑問を感じることなくそのままとらえていたようだった。



福祉相談部門から

長く関わりを持った人～Sさんのこと～

72歳で生活保護申請…受理されず
Sさん(72歳)とは、特掃で働く高齢者を対象にしたアンケートをする中で出会った。

2001年の夏、Sさんは初めて生活保護の申請をした。稼働能力を問われる年齢をとうに過ぎていたし、病気をおしてパートで働く奥さんとおつましい生活を送っていたので、申請が受理されないことはあまり考えていなかった。

ところが福祉事務所は、「奥さんが稼働年齢層にあり、実際にパートでの収入がある」として、申請は受理されなかった。Sさんはひどく落胆した様子だった。

路上で靴修理業 年もおしせまった頃、四辻の歩道で、Sさんが靴修理のコーナーを開いているのを見つけた。「ねえちゃん、靴はないか、直したる」というSさん。下駄箱の中に入れっぱなしの、かかとのある靴が思い浮かんだ。でも最近はほとんどそういう靴を履かなくて減っていない。

「ごめんね、ないんです…」と答えながら、Sさんの生活のことが少し気になった。「生保(生活保護)もう一度行ってみませんか。奥さんにも合わせてください。」しかし、生保の話になると、以前に断られて以来Sさんの口は真一文字。こういうパターンの反応は一度だけではなく、特掃の就労時に声をかけた時もそうだった。

技能講習の講師になる 今年1月下旬より、釜ヶ崎支援機構が開催している技能講習の中で、靴修理講習がある。Sさんのことを思い出して、この人を靴修理の先生にどうか?と担当者に推薦したところ、講師に採用された。

その後、何度か打ち合わせにやってきたSさんに会った。自分の技能を生かせる場所が見つかったのだろう、彼の笑顔には職人としての矜持(きょうじ)が見て取れた。

突然の死… ところが2月のある日、

Sさんの奥さんが釜ヶ崎支援機構の事務所に来た。Sさんが昨夜遅く、脳内出血で入院したとのこと。その日は靴修理の講習日だったが、これではしばらく講習どころではない。土曜日のため週明けの月曜日早々に、再度生保申請に行くことにして、奥さんは入念に書類の準備をした。

しかし、Sさんは日曜日の夜半、亡くなった。倒れてから間もない、突然の死だった。

奥さんから、「(Sさんは)講習のことをとても気にしていたのですよ」、と後になって聞いた。

一人一人の労働者、あるいは福祉自立をした方々も、ギリギリまで踏んばる、という現実にそう変わりはないのだろう。歯を食いしばって踏んばりながらも、こぼれ落ちてしまう無数の命。Sさんを始め、亡くなった方々のご冥福をお祈り致します。

ボランティアの力

これまでにあちこちから、ボランティアさんが来てくださいました。自分なりの問題意識をもって「このことをさせて下さい」と、徹底的に関わってくださる方、その日の相談者の必要に応じて、臨機応変に応じてくださる方。明るい笑顔で和気あいあいあと一緒にくつろいで下さる方、静かな物腰で、自然に、さりげない話し相手になってくださる方、毎月あるいは毎回、またご自分で決めたプランに従って必ず来てくださる方。更生相談所や病院のよどんだ空気

の中、長時間の辛い待ち時間を共にしてくれる人…。ボランティアさんの前では、おじさんたちは、また一つ別の表情を見せます。

ボランティアさんが帰るとき、彼や彼女は、今日関わった人から何かしかの力をもらって帰ることでしょう。おじさんたちの中には、思っている、照れくさくて、はっきり感謝の言葉を言わない方もおられます。でも、彼らの表情は静かに微笑んでいます。

役所、あるいは病院で、本人が相手の医師や相談員に、自分の抱えている問題を適切に伝えられないことが多い。多くの人が口下手でシャイな性格だからというだけでなく、孤立無援の野宿生活を経て、これからの先行きに不安や緊張を抱えている—そんな状況の中だからこそ、一緒に道中を歩く存在は、何よりも心強いようです。支援する人は、当事者と同じ歩みを歩んでいく。当事者が悩めるとき、その時間をともにする。悲しみや喜びの現場に立ち会うということ。その人が本来持っ



グランドゴルフを楽しむ会

ているはずの生きる力を、再び使えるようになるために、ボランティアの存在は、本

当に大きな力です。

この3月で何人ものボランティアさんが、次々と就職・転勤その他で旅立って行かれました。みなさん、本当にありがとうございました。あなた方がいなければ、なしえないことばかりでした。

ボランティア大募集します！ 野宿生活者の医療相談・生保申請のお手伝いに始まって、生保申請後も、病院訪問・施設訪問・アルコール依存症者の回復の支え・債務の問題の解決、その他、支援の

内容は多岐に渡ります。あなたの知恵と勇気と熱意を、待っています。



保育所の現場で子供たちから労働者にプレゼント

先日、南江口保育所の現場に行った。10日間ほどの現場だったが、毎日ペンキで色を塗りながら、労働者と子供たちはだんだん仲良くなっていった。

作業の最終日に、子供たちが「きれいにペンキを塗ってくれてありがとう」とお礼の手作りのカードを渡してくれた。予期せぬことで、4人の労働者たちは皆恥ずかしがってなかなか受け取ろうとしない。代表で1人の労働者が受け取った（写真）。保育所の所長さんも、労働者たちがする仕事がとても丁寧だったことに感激されていた。嬉しいことである。最後に、皆で子供たちと握手をして別れた。現場で握手をすることなどそうそうあることではない。

労働者たちは、子供たちの感謝の気持ちをももらった。彼らの1人は「嬉しくて体が震えた」と話していた。



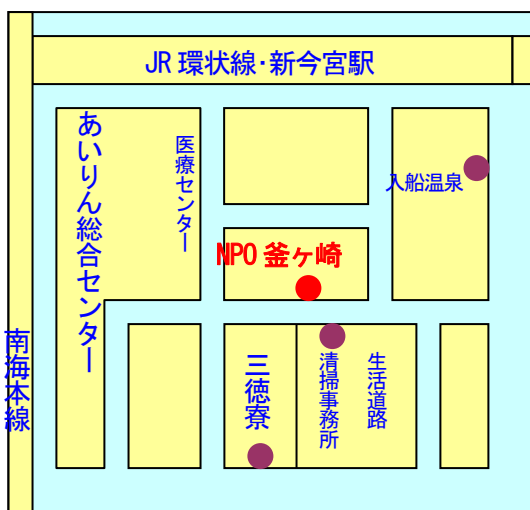
2002年度第1回会員の集い

4月21日(日)午後2時より・事務所2階

3月下旬より、特掃の輪番登録受付が始まりました。それに先立ち、釜ヶ崎支援機構の就労部門のスタッフが中心となり、大阪城公園、中之島公園、大泉緑地公園等の野宿生活者が多い公園を回り、釜ヶ崎から流れ出て野宿を余儀なくされている人たちに、登録受付の場所、日時等を案内して回りました。市内各所の公園で概ね共通しているのは、テントの数が以前に比べて増えていること。そして、そこで野宿している人たちが低年齢化しているということ。40～50歳代の人が多く、時には30歳代の人も見かけます。厳しい現実を見せつけられます。

さて、2002年度の第1回会員の集いを4月21日(日)の午後2時から、釜ヶ崎支

援機構の事務所にて行います。福祉相談、就労部門他の事業等の現況、野宿生活者支援法の行方等、近況報告を交えながら、交流を持てればと思います。ぜひご参加ください。



特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構 正会員・賛助会員について

○正会員…法人の目的に賛同して入会する個人又は団体(年会費1万円)

○賛助会員…法人の事業を賛助するために入会する個人又は団体(年会費5千円)

正会員は総会の構成員となり、議決権を持ちます。賛助会員は、総会への参加はできますが、議決権はありません。

郵便振込み口座：口座名「釜ヶ崎支援機構」：口座番号「00900-1-147702」

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構 会報 10号 2002年3月31日

〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋1-5-4

電話 06(6630)6060 FAX06(6630)9777

会費・寄付の振込口座：郵便振替：00900-1-147702 釜ヶ崎支援機構

福祉部門への振込口座：UFJ銀行萩之茶屋支店(普) 1114951 釜ヶ崎支援機構